



相手に生きる

学校教育目標 「相手に生きることによって自己を生かす」
西中スタンダード 「あいさつ」「歌」「清掃」「花」「服装」「時間」

前期人権教育旬間

6月10日（水）～22日（月）は「前期人権教育旬間」でした。本校では、自分を大切にし、同じように相手を大切にできるような人権に対する感覚を育てていきたいと考えています。旬間の始まりにあたり、校長から、平成24年度全国中学生人権作文コンテストにおいて法務大臣賞を受賞した 坪井 洸（つぼい こう）さんの「リスペクトアザース」を題材にした話がありました。

「リスペクトアザース」

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『**respect others**（リスペクトアザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南の南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいも、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前だったので、自分がまわりの人と違っていても当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクトアザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味もはっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはいけなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクトアザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクトアザース』の世界はここにはなかった。

僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『リスペクトアザース』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、大人も自分

自身を戒めているのかもしれない。

僕は日本でももっと、『リスペクトアザース』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

第56期(2020年度)生徒会スローガン

Do My Best ～当たり前前を当たり前前～

上記のスローガンを掲げ、生徒会活動も再開しました。生徒総会は書面審議という形で行われましたが、このスローガンには、「もう一度『西中スタンダード』の意味や内容を考え、全校で創り上げ、それを守るためにベストを尽くしていきたい」という思いが込められています。本年度は、様々な制約がある中での活動となってしまいますが、生徒会長の金子大智さんを中心に、生徒会活動を盛り上げてくれることを期待しています。

避難訓練・防犯教室・交通安全教室

6月18日(木)に、避難経路を確認するための避難訓練、引き続き、千曲警察署生活安全課の高橋さんを講師に迎えた防犯教室を開講しました。今回は趣を変え、スマホやSNSに関わるトラブルや犯罪から身を守る術を教えてくださいました。

6月23日(火)には、千曲警察署交通課の日高さん、長野県交通安全教育支援センターの荻原さん、内堀さんを講師に迎え、交通安全教室を実施しました。

ここで学んだことを忘れずに、中学生なので、「自分の身は自分で守る」という意識を強くもって生活してほしいと願っています。

中体連交流大会について

過日、「本年度は、中体連の更埴大会および北信大会を開催しない」ことをお伝えしましたが、代替の大会が下記のとおり行われます。観戦の仕方等、競技ごとの開催方法については、後日、顧問よりお知らせしますので、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

種目	期日・会場
軟式野球	7月23日(木) 更埴西中学校・24日(金) 須坂市営球場/飯山市営球場 予備日 7月25日(土)・26日(日) ※北信地区交流大会
ハンドボール	男女:8月1日(土)・2日(日) 埴生中学校 ※北信地区交流大会
男子バスケットボール	8月1日(土)・2日(日) 戸倉上山田中学校
女子バスケットボール	8月1日(土)・2日(日) 屋代中学校
男子バレーボール	8月1日(土) 坂城中学校
女子バレーボール	8月1日(土)・2日(日) 更埴西中学校
ソフトテニス	7月24日(金) 更埴東部テニスコート【団体戦】 8月1日(土) 更埴東部テニスコート【個人戦】 予備日 8月2日(日)
剣道	女子:7月24日(金) 坂城中学校・坂城町文化センター 男子:7月25日(土) 坂城中学校・坂城町文化センター
水泳	7月23日(木) 長野運動公園アクアウイング ※東北信合同(3年生のみ)
ソフトボール	8月1日(土)・2日(日) 高社中学校 予備日 8月8日(土)・9日(日) ※東北信合同

(文責:教頭 宮澤)